本業などとご謙遜されていましたが、「地域の名人に学ぼう」ということで、近所の小学校などで折り紙を教えられているとのことでした。私が折り紙を折るのは数年ぶりです。結婚披露宴で各テーブルを彩るために妻の出身地発祥の「桑名の連鶴（一枚の折り紙からなる連なった鶴）」を折って以来のことです（とは言っても、私はほとんど折れずに妻が百羽くらい折ったという非常に苦い（まずい）思い出です）。

さて、ご紹介いただいた作品は「アクロバットホース」、「カエル」、「バッタ」の三つでした。どれも簡単に折れたにも関わらず、完成するととても楽しいものに仕上がりました（実は「カエル」は途中から荒木田先生に全て折っていただいてしまいましたが）。帰宅後、これら折り紙を三歳の娘に見せると興奮してとても喜んでおりました。ありがとうございました。

折り紙教室の冒頭、そろばん教室は「地域貢献」という視点も大事だというお話がありました。また、先生はこの折り紙を「子供の目線」に立つアイテムとして上手に活用されていることも伝わってきました。「子供の目線」、「地域貢献」といった観点から私も何か探さなければという気持ちになり、大変よいきっかけを与えていただきました。

話が前後してしまいますが、「高校を卒業して就職した教え子が教室を訪ねてきてくれたうえ、初任給でプレゼントをしてくれた」と、荒木田先生が大変うれしそうに話されていたのも、とても印象的でした。先生が生徒から尊敬されていなければ、そのようなことはまずなかろうかと思います。

私も将来そのような経験ができるように、常日頃から全力で指導に取り組んでいきたいという思いを強く持つことができました。大変良いお話を聞かせていただきありがとうございました。

【第二講座】

お昼休みをはさんで、第二講座は杉山忠郎先生による「そろばん訪米使節団と広報事業の現況」と題したご講演でした。

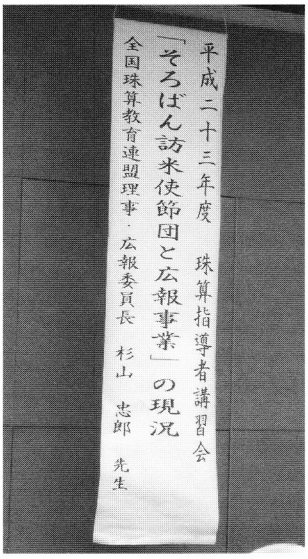
杉山先生は、全日本珠算選手権大会で年に一回お目にかかる程度であったのですが、私がご挨拶するといつもにこやかに応えてくださり、とても優しい先生という印象を持っておりました。その印象の通り、ご講演も冗談も交えながらのなごやかな雰囲気の中で進められ、楽しく充実した時間を過ごさせていただきました。

講演の前半は、杉山先生が団長を務められている「そろばん訪米使節団」について、実際の使節団の様子を記録したビデオ鑑賞などを通じたご紹介があり、また、アメリカ支部主催で開催される日米交流競技会で必要になる英語読上算の説明がありました。

訪米使節団での様子については、団を引率されている立場でしか知ることが出来ない子供たちの様子を色々と聞かせていただき、さまざまなご労苦がある中で事故なく無事に帰ってくることの大変さが伝わってくる内容でした。

お話を聞いて驚いたのは、アメリカの子供たちはフラッシュ暗算が出来ていても出来ていなくても、全員が挙手するとのこと。日本では出来ていないときは正直に、また出来ていそうでも遠慮がちに手を挙げない子供が大半です。

現在は本当にグローバル社会であると感じております。ヒト・モノ・カネが世界を駆けめぐる時代です。訪問するのはアメリカ一国だけですが、英語読上算や現地の子供たちとの会話を通じて、生の英語に触れることができる。また、日米のちょっとした文化の違いを学ぶことができるこの訪米使節団への参加は、子供たちが世界へ羽ばたく第一歩として充分に参加する意義のある内容であると、杉山先生のお話を聞いて改めて感じ、ぜひ生徒たちにも参加を考えてほしいと思いました。



講演の後半は、杉山先生が携わっていらっしゃる全珠連の広報事業について、広報委員長としてのお立場から取り組み内容の具体的な説明がありました。

講演の中で、全国珠算新聞を隅から隅まで読んだことがありますか、との問いかけがありました。なんと広報委員長自らが毎号全ての文章を校正されているとのことです。是非記事の全てに目を通してみてくださいとの言葉に、さっそく講演会の翌日に届いた第五九三号を全て読んでみました。

かかった時間はざっと四十分。読むだけでこれだけ時間がかかるのですから、校正するのには莫大なお時間を費やされていることが容易に想像でき、先生のご労苦は察するに余りあります。

講演を聞かせていただいて首尾一貫して感じたことは、広報委員会の仕事は非常に重要かつ大変であり、そこを杉山先生がしっかりと運営され、支えていらっしゃるのだということです。広報の仕事は今後の全珠連、ひいては日本や世界のそろばんの将来の鍵を